

# だれかを好きになるということ

## アンケートを生かす「男女の敬愛」の授業

- (1) 主題名 男女の敬愛 [ 2 - ( 4 ) ]
- (2) ねらい 男女が互いに相手に対する理解を深め、人間として高めあっていけるような関係を築こうとする態度を育てる。
- (3) 資料名 「だれかを好きになるということ」
- (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 主題を知る。	<p>事前にみんなからとったアンケートの結果です。</p> <p>どんな異性に対して、自分はいい なと感じますか</p> <p>男子と女子の結果を入れ替えてみよう。不自然だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意外なことに、ほとんど一緒だね</li> <li>・なんでだろうなあ</li> </ul>	事前に生徒にアンケートをとっておく。男女の性差はほとんどないと予想されるが、その結果から、人としての魅力が異性にも好かれることに気付かせたい。
展 開	<p>2 資料を読み、「私」の言動について考える。</p> <p>3 自分の考え方に照らし合わせる。</p>	<p>相田くんのどんなところに好感を持ったんだろう。「私」の気持ちが分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さりげない優しさ</li> <li>・同性に好かれているところ</li> <li>・穏やかで怒りっぽくないところ</li> </ul> <p>相田くんのことが気になるようだが、なぜ好きなことを認めないの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理想のタイプと違うから</li> <li>・好きという感覚がわからないから</li> </ul> <p>「私」は何にこだわっているんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見かけのよさ</li> <li>・女子からもてるかどうか</li> <li>・同じ女子からうらやましいと思われるかどうか</li> </ul> <p>「私」は自分の気持ちが分からなくなっているみたいです。こんな私にアドバイスの手紙を書いてあげよう。</p>	<p>男女ともに答えさせたい。発表を通して、男女互いの考え方を交流させ、アンケート結果と関連づけたい。</p> <p>私が理想と考えているタイプについて具体的に挙げてみるよう切り返す。</p> <p>理想と現実とのギャップに悩むことは多いが、私の理想が外面的で意味のないものであることに気付かせたい。</p> <p>学級内で発表し合う。恥ずかしがるようなら、いったん回収して教師が声に出して読む。</p>
終 末	4 教師の説話により、主題を味わう。	<p>自分がいいなと思う面には素直に拍手したい。</p> <p>いろんな生き方に学ぶためにいろいろな人との出会いを大切にしていこう。</p>	相手のことを本当に理解しようとすることの大切さを語りたい。

「だれかを好きになるといって」

二年になってクラス替えがあった。一年の時からあこがれていたＴくんと同じクラスになれるかもしれない、そう期待していた私は現実がそうあまくないことを思い知らされていた。Ｔくんとはまた別々のクラス。しかも、親友の里子がＴくんと同じクラスなんて。その日、家に帰っても、なんとなくおもしろくなかった。

「おかえり、真由美。どうだったの、クラス替え。」

そう聞いてきた母さんに、私は少しいらだちながら話し始めた。

「どうもこうもないよ。うちのクラスってばつとしない男子ばかり。なんかこの一年間、絶望的って感じ。」

「そんなこと言うもんじゃないわよ。今まで知らなかった人の中に、ステキな子がいるかもしれないじゃない。」

「でもホントにいないんだもん。女子はまあまあなんだけど。担任の先生もうちよつと考えてくれたっていいのに。それに比べて里子んとこのクラスはいいのよねえ。あゝあ、何で私ってこんなに運悪いんだろ。」

「最初っからそんな風に言ってたんじゃないやダメよ。せつかくクラスが替わって新しい出会いがあったんだから、真由美もイヤな面ばかり見ないで、前向きに考えなさい。」

「ううん。そうねえ。」

それ以上話してもムダだと思ってたから、適当に答えてその話は終わった。

私は出席番号が遅いほうだから、最初の席は後の方、クラス全体が見わたせる位置だ。やっぱり絶望的。そう確信した。私たち女子の中で話題になりそうな男子は一人もいない。楽しみにしていた野外活動も、もうどうでもいい感じに思えた。実際、女子の組み合わせは必死で考えた。仲のいい子と同じ部屋になろうと女子はみんな真剣そのもの。でも、その後の男子との組み合わせはくじで決まった。男子なんかのんきなもので、男子同士もくじで決まったらしい。信じられない。

こうして決まった班で、私は班長をするハメになってしまった。

野外活動の当日はちよつと天候が悪くて、ハイキングの道は、雨の後で泥沼の状態。こんなところで転んだら最悪だ。なのに、班長である私は地図やら鉛筆やら、いろんなものを持たなくちゃいけない。足下はするするすべりそうで、女子はみんなきやーきやー言いながら枝や岩を持って身体を支えているが、私は持ち物が多くて思うように枝を持ったりできない。転んだらどうしよう、そう思っていた時、「地図かして。持つよ。」と言って相田くんが私の手からよけいな荷物をとってくれた。「あ、ありがと……」突然の出来事だった。私は相田くんがどうしてそんなことしたのか不思議だったが、当の相田くんは別に特別なことをしたという風でもなく、それまでと同じように男子と話しながら歩いている。（へえ。相田くんって優しいんだ。）

その時初めて、私は相田くんという人を意識するようになった。

相田くんは陸上部だ。でも表彰されたことはないみたいだから、強い選手とかじゃないんだろ。うちの学校の陸上部ってよく知らないけど、あまり話題にならないと思うし、相田くんも女子からもてるタイプではなさそうだ。でも男子にはもてる、というか友だちは多いみたい。相田くんの所にはなんとなく男子が集まっているような気がする。相田くんは時々友だちから弁当の中身をせがまれてたりするけど、いつも「いいよ」なんて言っただけ。ホント怒ってるの見たことない。いつもニコニコしている感じ。ちよつとくらい怒ってもいいのに、いくら何でも人がよすぎる。自分がイヤなときはイヤだって態度

見せなきゃ、相手がどんどん調子に乗ってくるのに。それだから、パツとしないのよね。やだ、何で私が腹立ててんだろう。」

「真由美、最近Tくんのこと話さないねえ。前は 私にしつこいくらい聞いてきたのに。」

ある日、一緒に帰っていた里子がそう言うてきた。

「そうかなあ。そんなことないと思うけど。」

「さては、他に好きな人ができたかな？」

「そんなことないよ。私はTくんオンリーなの。」

私が好きなのはTくん。相田くんは優しいけど、彼にするならやっぱりTくんしか考えられない。Tくんはカッコイイし、優しいし、怒ったときにはちょっとこわい感じもして、ステキなのよね。それにTくんはバスケ部の中でも次期エースだって言われている。Tくんを好きな女子は多くて、競争率高いけど、やっぱり望みは高くないっちゃ。Tくんをやめて他に好きな人ができたとしても、それはもつとすぐステキな人が現れたときのこと。私が相田くんを好きになるなんてことあるわけない。でも、どうして気になるのかな、相田くんのこと。



# 活用に生かすための実践報告

「だれかを好きになるということ」

敬できる面や好感のもてる面を認め合おう  
というムードを高めるようにした。

## 1 主題の設定

中学生の時期は、異性に対する関心がそれまで以上に強くなり、個人差はあるものの、異性に対して変にぎくしゃくした態度をとるようになる。意識的に異性をさけるような態度をとったり、逆に異性の関心を誘うような態度をとることもあって、トラブルが起こりやすくなる。恋愛にあこがれて異性を求めるものの、どう接していいかわからず、自分の感情を持て余しているのである。本来、男女間における相互の在り方も同性間のそれも、互いに相手のよさを認め合うという点では変わることはない。

しかし、互いに信頼し敬愛し合う関係を築くには、中学生はまだ個として成熟してはいない。異性に対して外見ばかり注目したり、交際しているという事実で満足する、いわゆる「恋に恋する」傾向が強い。したがって、互いに向上していけるような関係を育てていくことの大切さに気付かせ、内面的に共感できたり、本音で話し合えたりするような信頼関係を異性との間に築いていこうとする態度を育てたい。

## 2 指導過程の工夫

男女の敬愛という主題に対して中学生は身構えてしまう傾向がある。反面、他人がどのように考えているか関心は高い。そこで、導入としてアンケート結果の紹介を取り入れ、意欲を高めるようにした。また、資料とアンケート結果とを展開の中で関連させていくことにより、自分たちの生活と切り離して考えないよう意図した。さらに、主人公へのアドバイスという形で自分の考えを書かせ、互いに級友の、特に異性の尊

## 3 発問の工夫

「私」の言動に対して意見を述べることは抵抗を示すと予想される。異性に対する考え方は男女差も個人差も大きいと思われるので、アンケート結果と関連付けることによって論点をわかりやすくした。また、「私」の悩みにアドバイスするという形で発言することにより第三者の意見を述べるような安心感をもたせるよう工夫した。

## 4 生徒の反応（授業後の感想）

男女により反応の違いが大きかった。特に、男子は女子の発言に圧倒された感があった。多くの生徒にとって、カッコイイ異性への憧れは共感できる点だが、だからといって相田くんが好きな気持ちを否定せず、いろいろな人のよさに気付くことは大切なことだと確認でき、和やかな余韻を残して終えることができた。

## 5 実践者からの一言

異性の理解を感動資料でなく共感資料を使って実践したいという思いから、本資料を作成した。一般的な中学生をモデルにした資料の中で、多少極端な本音の考えを示すことによって男子からの反論や女子からの異なった意見が出るよう働きかけを試みた。生徒の実態により、資料中の「私」の発言を変え、活発な議論を仕組むようにすることも可能であろう。

（戸坂中学校 松原千奈美）